

【第三種郵便物認可】

子供服の丸久

# バングラで生産

## 中国拠点集中から脱却

【徳島】子供服メーカーの丸久(徳島県鳴門市、平石雅浩社長)はバングラデシユに工場を建設する。すでに現地法人を設立、二〇一〇年四月に操業を開始する。第一期の投資額が約三億円、最終的には十億円を超す見込み。海外工場はタイ、中国に次いで三方所目。中国への集中を回避するとともに、欧米向け製品の生産拠点を育てる。

工場は首都ジャッカから約十五キロにある「EPZ」という輸出加工区に米月着工。敷地一万六千平方メートル、建物五千四百平方メートル。子供服を中心としたカジュアルの定番商品を生産する。月産二十五万枚を予定。当面は全量を日本国内の大手量販店や衣料専門店のプライベートブランド(PBL)自主企画商品などとして販売。売上高は六億八千万円を見込む。

今回の工場は第一期投資で、縫製とプリントを行う。第二期と第三期では染色工場と生地製造工場も順次建設する予定。第二期以降は、現地生産している中国とタイの企業との合併となる見込み。丸久の地域別の生産比率は現在、中国七〇%、タイ二五%、国内五%。中国は賃金が月額二万円

を超え、十年間で倍以上になった。これに対してバングラデシユは賃金が中国の五分の一。今後の生産比率は中国四五%、バングラデシユ三〇%、タイ二五%になる見込み。中国は短いサイクルの低価格商品、タイはこれまで日本で生産していた高級品を生産する。